

第IV部門

仮設構造物の遷移景觀に関する研究

近畿大学 理工学部社会環境工学科

学生員 ○中村 遼

近畿大学講師 理工学部社会環境工学科

正会員 岡田 昌彰

1. はじめに

工事現場は迷惑施設や負の空間として捉えられてきたが、近年では新たなメディア媒体として仮囲いを利用するといった積極的な活用事例が見られる。一方でその用途としては仮囲いのメディア利用などに留まっており、工事現場自体をデザイン対象とした事例は存在していない。また、既往研究¹⁾でも仮設構造物の景觀そのものに対する検討は未だ行われていない。

本研究では、建設・解体時に遷移景觀が現れることに注目し、これを工事現場の積極的な景觀評価における手がかりとした。遷移概念を含む美術作品を分類整理し、その論評を分析することによって、遷移景觀の美学的意義を明らかにし、工事現場の景觀評価への援用を試みた。

2. 工事現場・仮設構造物に対する社会的動向

近年では有名ブランドが仮囲いをデザインする事例があるほか、神戸・三宮のメディテラスビルの工事現場では、建物の完成予想外観をシートにプリントするデザインが見られる。また 2005 年には仮設劇場 2 箇所、さらに工事現場 3 箇所初めてグッドデザイン賞が与えられた。1994 年に建築・環境部門が創設されて以来、工事現場自体に賞が贈られるのはこれが初めての事例となった。

このように仮設構造物の利便性、工事現場の仮囲いのメディア利用という要素に社会の注目が集まっているが、工事現場自体を対象としたデザイン事例は未だ存在していない。

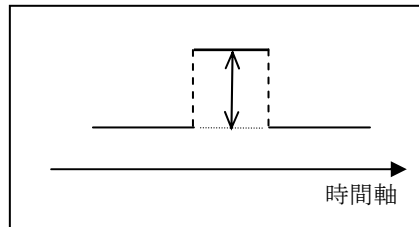


図 - 1 一過性概念図

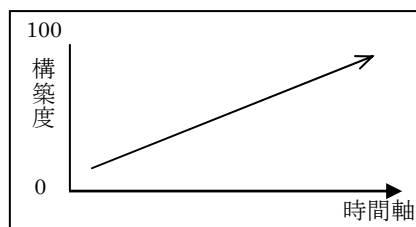


図 - 2 構築過程概念図

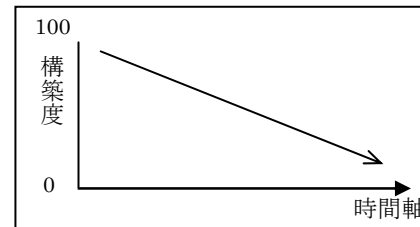


図 - 3 崩壊過程概念図

3. 既存美学にみる遷移現象の美学的意義**(1) 美術作品にみる遷移現象表現の諸相**

美術作品にみられる遷移現象には季節の移ろいや一瞬の美を捉えた一過性の概念(図-1)が表現されている。この中にはさらに、構築・崩壊過程(図-2・3²⁾)に分類されるものが含まれる。

(2) 遷移概念の論評分析

次に、遷移概念を含む美術作品を抽出し、各作品に対する論評を整理した(表-1)。遷移現象は多様な意味の想起・解釈を促すことが分かる。例えば徒然草については“人は移ろいに魅了される”点が指摘されているほか、せんい館(図-4)



図 - 4 せんい館

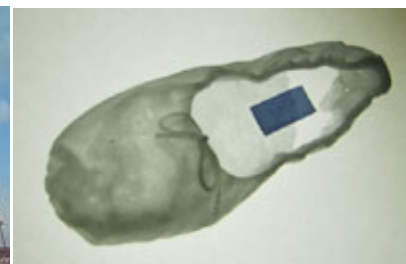


図 - 5 まどろみがはじまるとき

は未来への可能性が、宮永愛子の作品(図-5)は時の儚さが投影される点が論評されている。また、一過性は現象自体に美が見出されているのに対し、構築・崩壊過程は“可能性”や“儚さ”というような明快な意味内容の解釈に結びつく傾向がある。

表－1 美術作品にみる遷移現象分類表

	作品・インスタレーション名	芸術家	作品説明	論評
一過性	枕草子	清少納言	和歌の適切な題材やその情趣の見方を示すことで、その手引書的作用も担わされていたと言われている。	風景のとらえ方を当時の人々の教養として示していることから考えて、すでに時刻や季節の景観を好む感性はしっかり根を下ろしていると見ても差し支えはなからうか ³⁾ 。
	徒然草	吉田兼好	景物の移ろいに情趣すら感じて、「もののあはれ」を見取った目もある。	第19段の記述に端的に表れているように、人は、ものの安定した姿よりも移ろい揺らぐ姿にこそ魅了されるという ³⁾ 。
	梱包されたボン・ヌフ (図-7)	クリスト	フランスの橋を14日間だけ布で覆い、一時的な変貌を起こさせた。	都市は…ビルが壊され、また新たに建設されていくが、そのために外側を…囲われた建物を見るたびに…もしかするとあの中は…などと創造する人がいても不思議ではなくなっている ⁴⁾ 。
構築過程	UNDERCONSTRUCTION (図-8)	畠山直哉 伊東豊雄	仙台メディアテークの建設過程を撮影した写真集	…建築はつくられる過程から生きている。…使用開始後も建築は生活されることによって変化し続ける ⁵⁾ 。
	せんい館(図-4)	横尾忠則	仮設足場を残すことで構築過程を表現。足場も人形も全て赤色に塗られていた。	老舗である繊維業界のパビリオンで常識を破った新しいハプニングが見られそうである。…目指しているのは半世紀ではなく未来への可能性とも言えるだろう ⁶⁾ 。
崩壊過程	まどろみがはじまるとき (図-5)	宮永愛子	使い古された靴から型を取った「ナフタリンの靴」が並ぶ。ナフタリンは昇華するため、靴は徐々に消えて行く。	物事をうつろわせる時の儚さは感じられるけれども、このケースの中では、新たな出来事が起こっている。…刻々と過ぎてゆく「現在」と同時に…その先の未来へも想像が膨らむようだ ⁷⁾ 。
	そらみみそら		ガラスのひび割れを聴かせる作品。温度や素地・釉薬の調整し、長い不安定を作りだしている。	光、音、…自然の現象と化学物質との関わりによって生まれる作品は、秘められたストーリーを思う豊かなイメージーションを求める ⁷⁾ 。

4. 工事現場における遷移現象の類型分析

日常に見られる建設現場は構築過程、解体現場(図-6)は崩壊過程、仮囲いは一過性をもつ遷移景観と解釈できる。

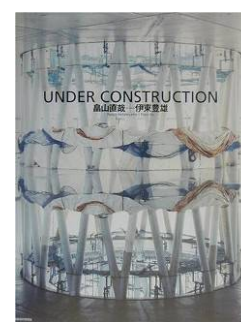
表-1のクリストの作品(図-7)の論評には「人々が日常の工事現場に何かを想起をすることもあり得る」という記述もあり、そこから美学的意義を見出すことが可能になるといえる。その他にも、遷移概念のみられる美術作品の中には工

事現場に類似したものが存在する。写真集 UNDERCONSTRUCTION(図-8)は、建設現場の構築過程そのものをおさめた作品であるほか、せんい館(図-4)のデザインは仮設構造物を巧みに利用した作品となっている。

このような意味において、美術作品と同様に日常の工事現場に対して人々が多様な意味を投影させることにより、美学的意義と結び付けられる可能性がありうる⁸⁾。



図-6 解体現場

図-7 梱包された
ボン・ヌフ図-8 UNDER
CONSTRUCTION

5. 結語

本研究では、既存美学にみる遷移概念を分類・整理し、多様な意味を帯びることにより遷移の美的価値が生じることを明らかにした。加えて、建設・解体という形で遷移景観が現れる工事現場も、美術作品と同様に多様な意味解釈を伴う美学的意義が付帯しうる点を指摘した。

[補注・参考文献]

- 1) 大阪市における市民に好まれる風景の空間構成および移ろい性に関する研究 下村康彦他 ランドスケープ研究 2005年
- 2) “構築度”とは対象の完成時点を100とし、その構築・崩壊度合いを概念的に示したものである。
- 3) 移ろいの風景論—五感・言葉・天気 小林亨：著 鹿島出版会：発行 1993年
- 4) クリスト：Christo works 1958-1983 中原佑介：著 草月出版社：発行 1984年
- 5) UNDER CONSTRUCTION 畠山直哉+伊東豊雄 (株) 建築資料研究社発行 2001年
- 6) 大阪万博せんい館 <http://expo70-web.hp.infoseek.co.jp/1senikan.html> (2006年1月15日現在)
- 7) 宮永愛子 <http://www.neutron-kyoto.com/gallery/0512.html#> (2006年1月15日現在)
- 8) 例えばクリスト作品の美学的意義とは、日常的に使われている橋を布で梱包することで、一度建造物から橋という1つの意味を切り離し、それにより人々に、その建造物の歴史やそこでの思い出、変貌を目にした経験といった様々な意味・想起を起こさせていることにある。